

AKITA STANDARD

あきたのそちから

— 授業の基礎・基本 —



Ver. 3 SINCE 2017.3

秋田県総合教育センター

発刊に寄せて

『あきたのそちから』をキーワードに、秋田の教師が年齢や校種の壁を乗り越え、大切に守り育ててきた秋田スタンダードの「授業の基礎・基本」をここに確認します。

これらは、これまで県内津々浦々で実践され、たくましく根を張り、大きな果実を結んできたものであります。

この冊子が皆様の机上の一冊として手元に置かれ、授業改善の課題解決に向けて、個人の研鑽や校内研修に大いに活用されることを望みます。

未来に新たな価値を生み出す子どもたちの「そちから」をさらに鍛え、「オール秋田」の精神で地域に根ざした活力ある学校づくりに邁進していきましょう。

発刊につきまして、ご協力いただいた関係各位に、厚く御礼を申し上げます。

平成23年 かまぐら の頃



※平成29年3月 イラスト等一部を変更しました。
※令和7年3月 p7の内容を一部変更しました。

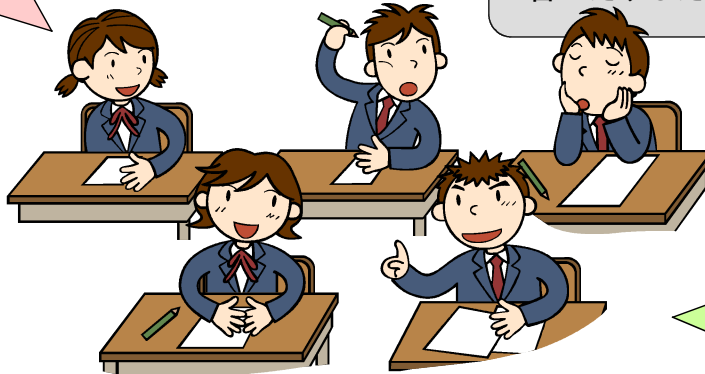
あ

あなたはどのような表情で授業をしていますか？

子どもは、教師の表情をよく見ています！

「先生の顔を見てると
やる気になる！」
「授業が楽しいよね！」

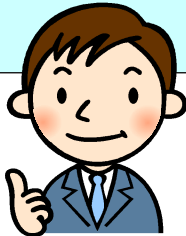
「今日の先生、機嫌悪そう…」
「先生、オレのこと嫌いなのかな…」
「まちがえたり、ピント外れなこと
言ったりしたらにらまれるぞ…」



「今日の先生、何か自信に
満ちているよ！」
「楽しくて、中身の濃い
時間になりそうだね！」

教師の豊かな表情は、子どもの思考を柔軟にします

肯定的評価を大切に！
「よくがんばったね」
「こんなことにもチャレンジ
できるね」



子どもの考えに感動すること！
「さすが！」 「これはすごいね」
「こういう考え方もできるんだね」
※子どもの思考に寄り添うのは
授業の基本です。



鍛える厳しさも！
「そこをがんばれ。君ならできるはずだ」
「今日は、このことをやり遂げよう」
「一緒にがんばろう、私もやってみるよ」

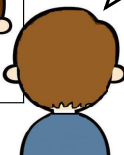


自分のことは、自分が一番分らない！

授業は、「笑顔で始まり、笑顔で終わる」ことが一番です。
ビデオを撮り、自分の授業をチェックしてみましょう。表情
だけでなく、くせ、言葉遣い、板書、立ち位置など、たくさん
の発見ができます。同僚からの指摘も大きな研修になります。



表情も
指導力



き

教師が輝く瞬間も必要です

「さすが先生！」と言わせる秘術、蘊蓄（うんちく）、説話

<何気なくみせる秘術（例）>

- ◇先生は、漢検一級レベルの漢字をすらすら書いてしまう。
- ◇先生は、98×35の答えを（分配法則で）3430と即答してしまう。
- ◇先生は、窓から空を眺めて、明日の天気を言い当ててしまう。
- ◇先生は、手に持っただけで、長さや重さを言い当ててしまう。
- ◇先生は、一口食べただけで、料理の材料が分かってしまう。
- ◇先生は、曲の出だしを少し聴いただけで、曲名が分かってしまう。
- ◇先生は、アメリカの人だけでなく、韓国の人とも会話ができる。



「さすが！」



「すご〜い！」

- ◇先生は、百人一首を全て諳（そら）んじることができる。
- ◇先生は、地名だけですぐにどこの県かを教えてくれる。
- ◇先生は、コマやけん玉など、昔の遊びを教えてくれる。
- ◇先生は、息継ぎもしないで、50mを泳ぎ切ってしまう。

<蘊蓄①>

エジプトのクフ王のピラミッドの四つの壁面は、東西南北を向いているんだよ。どうやって正確な方位を知ることができたのか考えたことがあるかな？



<蘊蓄②>

耳が悪くなったベートーベンは、人の話が聞こえなくなってしまったんだ。でもピアノの音だけは聞くことができたらしい。ピアノが改良される度に、新品を購入していたんだ。



<蘊蓄③>

最近「こ食」が問題になっているけど、考えたことがあるかな？「個食」、「孤食」、「固食」... この意味を考えると今の食の問題が見えてくるんです。



<説話>

世界でNo.1になった人たちには、興味深い共通点があるんだよ。それは目標をもつという、ごく普通のことなんだが、興味深いのは、その目標には達成までの期限がついているということなんだ。例えば「〇〇までに△△をする」という具合だ。みんなも...

がんばる姿は、必ず子どもの心に届く！

教師だって人の子、できないことや不得意なこともあります。しかし、それらを克服するためにがんばる姿を見た子どもたちは、きっとこう思うでしょう。「さすが先生！」と。

そして、「さすが先生！」と言わせる場面を披露し合い、磨き合うことで、「さすがおらほの学校の先生！」になるのです。

さすが先生！



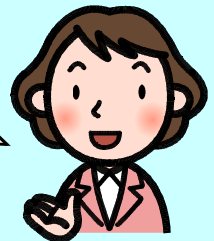
た

確かな発問が授業を変える

発問とは 「学習指導の中に、意図的に設けられる児童生徒への問いかけ」

- 【導入時】 ◇学習経験（興味・関心、体験など）を調べるための発問
◇復習のための発問
◇興味・関心、問題意識を高めるための発問
- 【展開時】 ◇課題をつかませるための発問
◇ヒントや手がかりを与える発問
◇矛盾、対立、葛藤を生むための発問
◇発想の転換を図る発問
◇イメージを広げる発問
◇多様な考えを引き出す発問
- 【整理時】 ◇問題整理のための発問
◇抽象化、一般化のための発問
◇定着、練習のための発問
◇評価のための発問

発問の
ねらい



- ◇明快な「問い」であること
「意味が明確か」「問いの方向性は確かか」
- ◇計画的・意図的であること
「発問が学習の流れに沿って計画されているか」
- ◇興味・意欲を呼び起こすものであること
「考えようとする意欲を呼び起こすものであるか」
- ◇児童生徒の実態に合っていること
「一人一人への配慮がある発問か」
- ◇タイムリーであること
「機をとらえた発問か」 工夫された発問でも、機を逸すると効果は半減

よい発問
の条件



発問に関する留意事項

- ・発問の質や程度
- ・発問者の態度、タイミング
- ・子どもの応答の扱い
- ・発問をつなぐこと

「発問」のレベルアップのために…

- ☐ 教材研究に裏打ちされたものであるか。
- ☐ 授業後の研修等で取り上げているか。
特に「ねらい」に迫る発問であったか。
- ☐ 個々の子どもに対応した準備があるか。

1分の沈黙は、2分の問いかけより子どもの思考を促す

教師は話しすぎる傾向があり、発問した後、反応がないと心配になり、さらに問いかけてしまうこともあります。

しかし、子どもは教師が話している間は考えないものです。そこで「間」を生かすことが大切になります。

- ◇「間」が子どもの緊張感と、考えることの必要感を高めます。
◇考えさせるには、そのための時間を保障することが大切です。

間の
重要性



発問をより効果的にする話し方のテクニック

～話す内容以上に子どもたちに語りかけるもの～

- 1 子どもたちに話を聞く準備をさせる
子どもたちの目・手・姿勢
- 2 聞き取りやすい声の大きさ
普通の話し声よりは大きく
- 3 話すスピード・抑揚
普通よりややゆっくり、抑揚をつけて
- 4 表情・ジェスチャー
生き生きとした表情、場合によっては身振り・手振りも
- 5 板書や資料を示しながら話す
言葉だけでなく、資料や写真などと関連させて



特に、子どもたちに注目させたい場面では
声の大きさやスピードを変える

- 1 小さな声でゆっくり話すと、子どもは一生懸命聞こうとする
こちらの思い入れが大きいところでは、声も大きく、早口になりがち
- 2 声を出さずに問う
ジェスチャーや無言での動作は、子どもの集中力を高める
- 3 子どもに大きな声で発表させたいときは、子どもから離れるのも効果的
黒板の前にばかりいるのではなく、
発言する子どもに対して
教室の反対側に位置する
ようにする

授業中の教師の立ち位置を
工夫することは、指導力アップ
のポイントです。

発言する
子ども

黒 板

教師の
立ち位置

共有と伝承を！ 先輩や同僚からのアドバイス

「発問の善し悪しは、子どもの顔ですぐ分かるよ。発問したあとの子どもの表情をよく見てごらん。」

「あの場面では、子どもに『なぜ』と問いかけたほうがよかったと思うよ。自分で課題を発見させるよいチャンスだったんだ。」

このような、豊富な実践や経験に基づいた的確なアドバイスが、「あきたのそごちから」を培ってきたのです。共有し、次代に伝えていくためにも、学び合う教師集団であることが大切です。

そごちからの
共有と伝承を



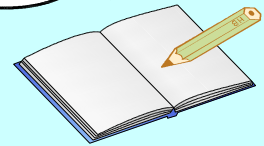


ノート指導は、子どもをよく見ることです！

【子どもの立場では】

- ◇学習の理解が深まり、定着に役立つ。
- ◇考えが広まったり、深まったりする。
- ◇自分の考えが整理され、説明にも役立つ。
- ◇復習時の参考書や資料として活用できる。（学びの連続性）
- ◇自己評価ができる。

ノートの
意義



【教師の立場では】

- ◇子どもの学習状況を把握し、効果的に学習を進めることができる。
- ◇子どもとの良好な人間関係の構築に役立てることができる。
- ◇予習や復習等と関連させて、子どもの学習習慣の改善ができる。

留 意 事 項

子どもの発達の
段階に適した
ノートを準備！
マス目(大小)、
罫線のみ等

必ず記入する
事項を明確に！

- ☐ 学習日時
- ☐ 学習課題
- ☐ 考え（自他）
- ☐ まとめ 等

学習日時

学習課題（めあて）

自分の考え、友人の考え

学習のまとめ

確認問題

感想、自己評価

宿題、家庭学習

ノートガイダンス
の実施！
書く内容や書き方
のルール等を確認

- ☐ めあて等は、
赤ペンで囲む
- ☐ 間違い直しは、
消しゴムで消さ
ずに、近くに訂
正を記入させる



小学校高学年以降は、自分の工夫を書き込んで、自分なりの参考書になるようなノート指導を！

小・中・高の連携で、継続したノート指導の実現に結び付ける！

「書くのが遅い子どもを待っていると、早く書き終わった子どもが遊んでしまうし、かといって遅い子どもをおいていけないし…」子どもによって書くスピードは異なる。その差が大きくなならないように、普段の指導が大切である。

◇書くのが遅い子どもへの支援（例）

- ・書き始めが遅れていることがあるので、注意を喚起する
- ・書くことが極端に遅い子どもには、ノートに赤鉛筆で薄く書いてあげたり、作業量を調節したりする（できたらほめること！）

◇早く書き終えた子どもへの対応（例）

- ・別の解決方法を考えさせる
- ・発表準備をさせる
- ・板書させる 等

そ

相互に啓発する授業を(話し合い、学び合い)

- ◇より主体的な態度を身に付けることができる。
- ◇自分の考えをより確かなものにすることができる。
- ◇相互に刺激し合い、思考を活発にすることができる。
- ◇新しいものの見方や考え方をづくり出すことができる。
- ◇集団として創造的な活動を行うことができる。

学び合い
の意義



話し合い、学び合いにおける留意事項

- ◇指導の目標や内容に合った形式、形態を採用すること。
- ◇指導者としての具体的な支援の方法を考えておくこと。
- ◇事前に必要な指導を徹底しておくこと。



話し合い、学び合いにおける助言の仕方

発言が一部の子どもに偏り、
一人一人に深まりがみられない。



話し合いを踏まえ、一人一人が
考えをまとめる時間を設ける。
意図的な指名を行う。

焦点がぼける。
深化・発展の糸口がみえない。



本題が何であるかをおさえる。
それまでの議論を整理する。
発想や場面を変えた助言をする。

司会者が十分に機能していない。



話し合いの進め方、意見の処理の
仕方など、その場で指導する。

意見をうまく表現できなかったり、
わざと意見を言わない子ども
もいる。



機会をとらえて、子どもの考えを
聞いてあげるようにする。
話し合いの大切さや意見を発表する
ことの意義について指導する。

【留意点】

- ◇助言が頻繁で、話し合いを分断することにならないようにする。
- ◇話し合いに過度に完全さを求めない。
- ◇大勢の児童生徒から意見が出るような指導・助言を心掛ける。
- ◇「話し合ったこと」が意味のあることと実感できるような指導・助言を心掛ける。
- ◇「話し合い」を通して、「話し合い」の方法や意義を教え育てると
いう心構えをもつ。



展開を予想し、場面に即応した指導を行うために、教員同士も学年や教科の壁を
越えて、相互に啓発し合いましょう。



子どもの思考の足跡が分かる板書に

板書の意義

【音声言語の補助手段】

- ◇正確かつ明瞭に伝達する手段
- ◇留意点を活動中も意識させ続けるための補助手段

【集団思考のノート…形成機能】

- ◇ねらいの共有化、課題の明確化
- ◇比較や概念の関連付けなど思考のヒント
- ◇子どもの思考に沿った加除訂正

【理解・定着機能】

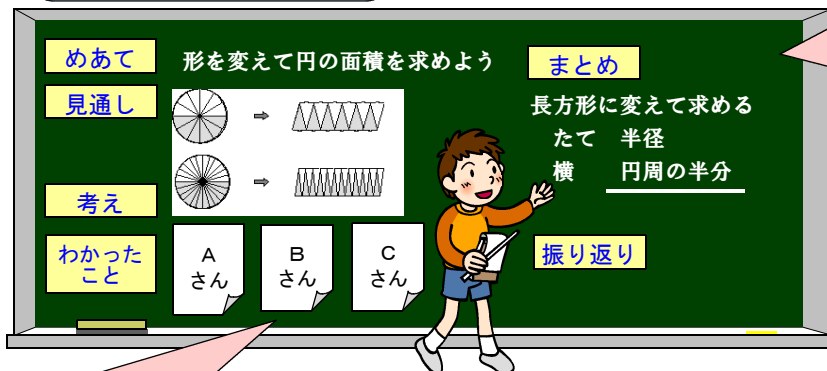
- ◇概念や知識の整理や構造化
- ◇学びの流れ、概念や知識の習得過程を振り返る手立て

板書を軽視していませんか？

音声は消えるが、
板書は残る！

この「残る」そして
「見える」ことを
最大限に生かす

よい板書を目指して

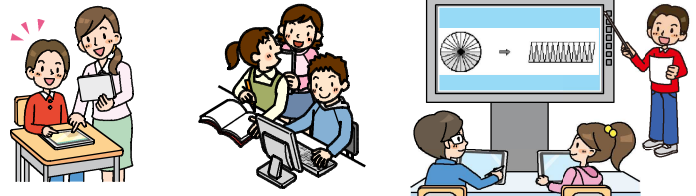


【板書の基本】

- 楷書で、正確に丁寧に！
- 学年や実態に合った漢字使用
- 文字の大きさ
 - 一般的には12cm四方
- 見えやすく
 - 照明や日光、色や囲み、色の見え方に困難を感じている子どもにも配慮して
- 消し方にも一工夫
 - 要点のみ残して焦点化を

【子どもと共に創り上げる板書】

- 子どもが黒板の前で活躍する場面をつくる
- できるだけ子どもの言葉を活用する
- 板書内容、書くタイミングを計画する



ICTの活用

【ICTの活用によってできること（例）】

- 1人1台端末に配信された写真や教材に電子ペン等で直接書き込んだり、完成したものを共有したりするなどして、自己の学びを可視化する
- クラウド上に学習履歴を保存し、データを必要に応じて自由に閲覧したり、取り出して繰り返し活用したりするなどして、自己の学びを調整する
- まとめや振り返りを、電子黒板等で共有する

【ICTを活用した秋田の教育力向上事業】

県教育委員会では、ICTの活用を加速化・強化することを目的として、表記事業を実施しました。本事業の成果の一部は、県内各学校におけるICTを活用した授業改善の参考となる資料「ICTの効果的な活用による学校改善支援プラン」として紹介されています。



ICTの活用だけで板書代わりにになりますか？

画面は切り替わり、そして一瞬で消える！

教科等の見方・考え方や学びの過程を
整理し振り返ることができるよう、
板書の掲示の仕方を工夫する

ICTによる情報の提示は、そのまま
板書の代わりになるものではないこと
に留意する

【ICTと板書の関わり（授業者として）】

- ICTは、情報提示により学習意欲を高めたり思考を深めたりするツールとして、黒板は、情報を精査しまとめる場として、それぞれの役割を明確にし、メリットを組み合わせる授業づくりを進める

ち

ちゃんと考えをもたせる助言の在り方

できるだけ自力解決、または集団解決するための援助を

子どもと共に考えるというスタンスを大切に

☆問題点を分析する

問題を分かりやすく言い換えてみる。

「分かっていることは何だろう」

「今考えることは何かな」

「図（表）に表して整理できないだろうか」

☆新たな視点から問題にアプローチする方法を考えてみる

「もし、～だったらどのようなになるだろうか」

「この方向から考えることもできそうだね」



友達の考え方をヒントにする場面を

☆問題が解決してから発表させるより、むしろ思考・判断の途中の段階で発表させる。

「自力解決にこだわる」「他の考えに依存しようとする」など、多様な子どもがいるので、そのタイミングには注意が必要。

「〇〇さんの考えと◇◇さんの考えからは～ということが言えそうだね」

「このように考えると、～はどうなるのだろうか」

☆グループ学習の場面を設け、話し合いを活性化させる問いも有効。

「AグループとBグループの似ている部分、異なる部分は何かな」

※異質・同質のグループ編成を工夫し、生かすことも有効。



子どもがつまづいたとき、すぐにヒントや助言を与えてしまうのではなく、ヒントを含んだ課題提示・環境づくりなど、子どもが自ら問題の解決の糸口に気付くことができるような配慮が大切です。

タイムリーな指導・援助には事前の準備が不可欠（教材研究の充実）

学年や教科の枠を越えて、小さなことから考えが深まる助言の在り方などを議論しましょう。

- 予想される子どもたちの反応を類型化しておきましょう。
- 反応の根拠となる部分の分析とその分析に基づいた支援を準備しておきましょう。
- 日頃の子どもの反応の傾向をもとに意図的な指名の準備をしておきましょう。
- ・子どもの数だけ支援の方法があると思いがちですが、用意した指導・援助が多すぎると、かえって煩雑で使いこなせなかったり、逆効果になってしまったりすることのほうが多いようです。

問題解決場面
での支援



か

活発な発言が本当の理解につながる

まちがえたくない

はずかしい



子どもが手を挙げない授業
誤答が出ない授業

間違いを許容する雰囲気づくり
子どもの心をつかむ教材の工夫
あっと言わせる教材提示の仕方
時には笑いを引き出す話術も

ポイントとなる場面では、教師の意図的な失敗も効果的！

先生が困っている状況も

「あれ、どうなるのかな。
先生もわからなくなったぞ。」

先生がわざと間違う

「先生、その計算が違います。」など、
子どもの活躍する場を意図的に！

教師と子どもの役割交代も効果的

- 1 子どもが先生役をすることの効果
- 2 先生が子どもの立場になる機会をつくる

子どもの誤答に対しては

- ◇「正しい」「間違い」だけに話題を焦点化しない。
- ◇その論理に共感してみる。「なるほど、この考え方に説得力があるね」
- ◇その上で、誤答から学ぶという姿勢を大切にする。
- ◇貴重な考えを出してくれたことに感謝する。

40人の子どもがいれば、40通りの考え方がある

正解にも間違いにもその子どもなりの論理があります。その考え方を知り、どのような手立てを講じるのかを考えていくことを誤答分析といいます。授業の達人は、よく誤答分析の達人でもあるといわれます。子どもたちの予想される反応とそれに対する適切な対応を準備できるからです。反対に、予期せぬ子どもの反応に動揺して、いい加減な対応をしてしまうと、子どもの信頼を失いかねません。

間違いは
大切に



ら

ランダムになんとか教室内を歩いていませんか？

机間指導をしているとき、教師は最も忙しいのです！

◇クラス全体の学習状況を把握する。

- ・学習に集中しているか。
- ・課題の意味を理解しているか。
- ・時間はどの程度かかりそうか。

◇指名・練り合いのプランを立てる。指導プランの修正をする。

- ・意図的な指名で進める際には、その順番はどうしたら効果的か。
- ・自由発言で進めるとしても、ぜひ、取り上げたい考えはどれか。

◇個々の子どもの学習状況を把握する。(指導と評価の一体化)

- ・評価規準に基づき、「努力を要する」と判断される子どもへは…。
- ・「学習の高まり、深まり」の見られる子どもへは…。
- ・「関心・意欲・態度」「思考・判断・表現」については、机間指導時に学習状況をつかむことが望ましい。機を逸することなく…。

机間指導
の意義



机間指導は、個別の支援のチャンス！

◇支援の手立ては事前に準備しておく。

◇助言は3回に分けるぐらいの気持ちで支援を行う。

◇特定の子どもだけに付きっきりにならないようにし、できるだけ多くの子どもに声をかけるようにする。(ただし、本時で特に支援を手厚くする子どもを設定することもあり得る。)



TTにおいては

◇本時のねらいを確認する。

- ・授業で子どもがどのような力を付けて、最終的にどのような姿になればいいのか、イメージを共有する。

◇それぞれの役割を明確にする。

- ・机間指導においても、特別な支援を要する子どもへの対応、担当する指導場面などの分担等を明確にする。

◇授業内での生徒の気持ちに沿った発言や役割交代も効果的。

- ・授業の流れを分析し、T2の介入の場面を意図的に設定する。

座席表の活用

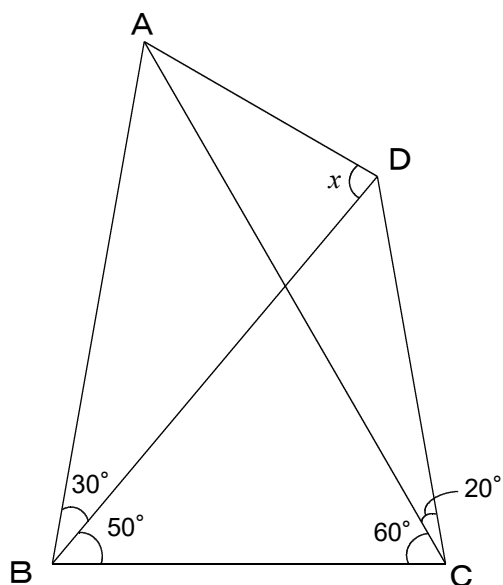
◇一人一人の子どもの学習状況を把握し、指導に役立てるために座席表の活用が効果的。

ただし、座席表への記入が目的化しないように。また、記号を工夫するなど、簡略化したい。

◇TTでは、相互に情報を交換しやすいよう、共通の視点で！

T1、T2のコンビネーションも大切。

∠ x の大きさを問う (初等幾何学的な解答を求む)



たまには、
算数・数学の世界で
おくつろぎください。



平成22年度わか杉思考コンテスト（小学校の部）問題から

〔平成22年11月13日（土）実施 秋田県教育委員会〕

図1は、各面にそれぞれ「い・ぶ・り・が・っ・こ」の6文字が書かれている立方体の展開図です。

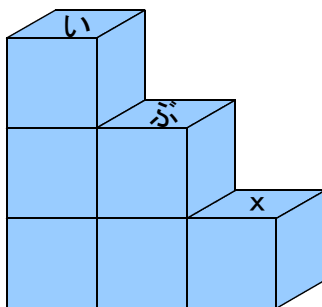
図1



この立方体を6個つくりました。立方体の同じ文字の面どうしがつくように積み上げて、図2のような立体を作りました。

このとき、面 x に入らない文字は何でしょうか、すべて書きなさい。

図2





秋田わか杉 七つの「はぐくみ」

- 一 早寝早起き 朝ごはん 生活リズムは 全ての基本
- 二 元気なあいさつ 明るい返事 規則 約束 守るわか杉
- 三 読んで 話して 書いて 高める 「問い」を発する 思考力
- 四 問題解決 子どもが主体 授業の続きは 家庭で学習
- 五 職場体験 インターンシップ 地域で育む 子どものキャリア
- 六 学校や地域的话题で語り合い 将来の夢 家庭でえがく
- 七 ふるさとを支える自覚と志 みんなでつくる 未来の秋田

ふるさとを愛し、社会を支える自覚と高い志にあふれる人づくり

～オール秋田でつくる教育環境は秋田の財産です～